





TR-04 鶴舞神社

鶴舞藩士の崇敬により明治3年(1870)に字雪解澤に創立され、同28年に稻荷神社・秋葉大神が合祀され現在地に遷座しました。稻荷・秋葉両大神は藩主井上氏の領地替えのたびに城内に勧請されてきました。境内には、嘉永3年(1850)に浜松藩士25名の寄進による灯籠一基、安政7年(1860)銘の手水石、慶応3年(1867)銘の神使があります。これらは浜松藩時代の奉納品を移したものです。



TR-05 西蓮寺(鶴舞不動堂)

明治18年(1885)、成田山新栄講社行者の河津宗成師を中心とした信者の発願により、成田山新勝寺にて開眼供養された不動尊や阿弥陀如来等を勧請しました。田尾地区にあった真言宗豊山派の西蓮寺を移し、同25年に不動堂が完成しました。大工棟梁の月出の野口氏は名工といわれ、不動堂の見事な彫刻は、見どころの一つです。境内には日清戦没者の忠魂碑等、多くの石碑があります。



TR-06 鶴舞藩庁跡

慶応4年(1868)の徳川家達の駿府移封に伴い、浜松藩6万石の藩主井上正直が領地替となり成立した鶴舞藩の庁舎跡です。井上氏は転封を繰り返しながら幕府の重職を歴任した譜代大名で、10代正直は明治2年1月に浜松城を出発し、翌3年4月に石川村字桐木原に藩庁を新築し、この地を「鶴舞」と名付けました。藩校克明館の建設や町割り等も行いますが、同4年に廢藩置県を迎えました。



TR-07 龍渓寺

大永元年(1521)益芝明周和尚の開山、元亀3年(1572)池和田城主多賀氏が再建したと伝わる曹洞宗寺院です。境内には、木更津市請西に陣屋を設けた上総請西藩主林氏の先祖で大坂夏の陣で戦死した林吉忠から寛政8年(1796)没の13代忠篤までの墓石があります。明治以降は鶴舞藩士の菩提寺ともなりました。本尊の木造釈迦如来坐像は、明朝様式の菩薩形で、市指定文化財です。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないように行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合もあります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちはらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 Tel.0436-41-9344 Fax.0436-42-0133

令和4年3月 第1版第1刷発行

I'Museum Field

鶴舞



近代の夜明けとともに鶴舞藩の城下町として栄えてきた鶴舞エリア。鶴舞駅周辺の池和田は養老川支流の適地として戦国武将たちが覇権争いを繰り広げました。多くの文化人を輩出し、出資者が小湊鉄道の設立を支えました。

I'Museum



TR-01 大宮神社

明治以前は大宮大権現と称した古社で、大己貴命・月読命・素戔鳴尊が祭神の地域の鎮守社です。境内には市内最古の万治2年(1659)銘が入る庚申塔があり、60日ごとの庚申の夜を眠らずに過ごして健康長寿を願って造立されました。他にも出羽三山参拝記念に大正～昭和期に建てられた供養塔や、昭和4年の池和田耕地整理竣工碑等があり、通りから階段を上ると静寂の森に包まれます。



TR-02 光明寺

山号の音信山(山口地区)は、聖武天皇勅願の金光明寺の旧跡とも伝えられ、永觀元年(983)に大僧正覺運が再興したのち、現在地に移ったと伝承されます。本堂周囲の土壘や堀の跡から中世の館跡ともいわれ、近世には朱印高15石を受けました。かつては本堂と庫裏がつながり、現在の本堂は文化14年(1817)の建造で、間口約17.5m、奥行約16m、高さ約18mの宝形屋根を持つ当時の姿をとどめます。



TR-03 池和田城跡

和田太郎正治の築城ともいわれ、戦国武将里見氏傘下の長南武田氏についた多賀蔵人が城主を務めていました。永祿7年(1564)の第二次国府台合戦で北条氏が里見氏を破り、上総に侵入した際に攻勢により落城しています。その後、多賀氏が奪還したともされますが、再び北条氏の影響下に入りやがて廃城となりました。主郭とみられる山頂部には、菅原道真を祀った天神社があります。